

さやいんげん

農薬取締法上「さやいんげん」は「いんげんまめ」とは別の作物である。

「さやいんげん」には、「さやいんげん」「豆類（未成熟）」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。

—— 発病・加害時期
==== 発病・加害最盛期

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病虫害名													
普	通				● は種		■ 収穫		■				
灰	色				——								
炭	疽				——								
さ	び				——								
ア	ブ				——								
マ	メ				——								
ハ	ダ				——								

灰色かび病

留意事項

- 1 発病適温は20～25℃である。
- 2 アミスター20フロアブルは、薬害のおそれがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。
- 3 QoI剤<<11>>、SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [セイビアーフロアブル20](#) <12> 【1000～1500倍 前日／3回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <<11>> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [アフエットフロアブル](#) <<7>> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [ニマイパー水和剤](#) <1> <10> 【1000倍 収穫開始14日前／3回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

- 1 QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 施設栽培では換気を徹底する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 密植を避け、通風を図る。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) <<11>> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [ニマイバー水和剤](#) <1> <10> 【1000倍 収穫開始14日前／3回】

さび病

留意事項

- 1 SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフエットフロアブル](#) <<7>> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [ハーモメイト水溶剤](#) <NC> 【野菜類 800倍 前日／ー】

ウイルス病

留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。

防除方法

- 1 健全種子を用いる。
- 2 シルバーポリフィルムでマルチングを行い、アブラムシ類の飛来を回避する。
- 3 子葉展開時から有翅アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項 参照）
- 3 生育初期に寒冷しゃのトンネル栽培を行う。
- 5 除草を徹底する。

アブラムシ類

留意事項

- 1 スタークル粒剤、アルバリン粒剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は3回以内（但し、株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

- 1 シルバーポリフィルムでマルチングする。
- 2 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) <4A>
【9kg／10a 株元散布 生育期（収穫開始14日前）／1回】
 - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) <4A>
【1～2g／株（但し、6kg／10aまで） 植穴土壌混和 定植時又はは種時／1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 < 4 A > 【2000～4000倍 前日／3回】
- ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【3000倍 14日／3回】
- ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9 B > 【4000～6000倍 前日／3回】
- ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000～4000倍 前日／2回】

マメハモグリバエ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) < 3 A > 【ハモグリバエ類 3000倍 14日／3回】
 - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【ハモグリバエ類 2000倍 前日／2回】
 - ・ [カスケード乳剤](#) < 1 5 > 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [ダブルシューターSE](#) <ー> < 5 >
【豆類（未成熟） ハモグリバエ類 1000倍 前日／3回】

ハダニ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 乾燥するほ場では、十分かん水する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [ダニトロンフロアブル](#) < 2 1 A > 【1000～2000倍 前日／1回】
 - ・ [ニッソラン水和剤](#) < 1 0 A > 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [サンクリスタル乳剤](#) <ー>
【野菜類（除なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎく） 300～600倍 前日／ー】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。